



連載

37

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

新型コロナウイルスのワクチン接種が順次始まります。ワクチンの作用や副反応などについて正しく理解し、接種に臨んでください。持病をお持ちで不安のある方は、かかりつけ医にご相談ください。

新型コロナ ワクチンについて

小田原医師会理事 遠藤 徳之



言葉で書きました。本ワクチンは、特例承認(※)されたものです。また、COVID-19の予防や副反応について得られている情報は限られています。本ワクチンを受ける前に、かかりつけ医へ相談したり、接種担当の医師などから本ワクチンの説明を受けてください。

新型コロナウイルス (原因ウイルス名SARS-COV-2) による感染症COVID-19、新型コロナウイルス感染症が発症すると、熱や咳といった症状がみられます。軽症で治療する方が多いですが、重症になると、呼吸困難や肺炎が重症化し、死にいたる場合もあります。

新型コロナウイルス (以下、本ワクチン) の接種を受ける予定のある方または、接種を受けられる方とそのご家族の方々に本ワクチンについて知っていただくために、要点を出来るだけ簡単にまとめました。

表1 アナフィラキシーの頻度

薬剤	発生数/100万あたり
ペニシリン(抗生剤)	4590
消炎鎮痛剤	13090
コロナウイルスワクチン	2.5-17.1
インフルエンザワクチン	1.4

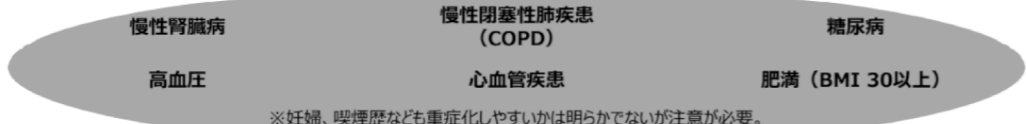
アナフィラキシーの頻度は、インフルエンザ予防接種よりは多いが、抗生剤や消炎鎮痛剤に比べれば、かなり少ない。

表2 30歳代と比較した場合の各年代の重症化率

年代	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
重症化率	0.5倍	0.2倍	0.3倍	1倍	4倍	10倍	25倍	47倍	71倍	78倍

※「重症化率」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例(無症状を含む)のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合。

重症化リスクとなる基礎疾患



※妊婦、喫煙歴なども重症化しやすいかは明らかでないが注意が必要。

出典：京都大学西産科産科データ及び新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き(第3版)に基づき厚生労働省にて作成

■新型コロナワクチンの安全性(副反応)

接種後(特に、接種直後〜数日間)はご自身の体調に注意しましょう。

下記のような症状や、いつもと違う体調の変化や異常があれば、

種を受けた医療機関等の施設の医師、看護師またはかかりつけ医へ相談してください。

起こるかもしれない重い症状(頻度不明)

□ ショック、アナフィラキシー

【症状の発現状況、時期、持続期間など】

ワクチン接種直後から、時には5分以内、通常30分以内以下の症状が現れた場合、ショック、アナフィラキシーの疑いがあります。

□ 皮膚症状：皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑、皮膚の発赤など

□ 消化器症状：腹痛、吐き気など

□ 視覚症状：視覚の異常

□ 呼吸器症状：声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさなど

□ ショック症状：蒼白、意識混濁など

本ワクチンの接種を受けた後しばらくの間は、接種を受けた医療機関等の施設でお待ちいただき、このような症状がみられた場合には、ただちに、接種会場となる医療機関等の施設の医師、看護師等に伝えてください。

起こるかもしれない体の症状(接種を受けた方の10%以上に起こったもの)

□ 注射した部位の痛み、腫れ □ 下痢 □ 筋内や関節の痛み

□ 頭痛 □ 疲労、寒気、発熱

【症状の発現状況、時期、持続期間など】

● 注射した部位の痛みの多くは接種当日に現れ、持続期間は約2日でした。

その他の症状の多くは接種翌日に現れ、持続期間は約1日でした。

● これらの症状の多くは、1回目の接種より2回目の接種時に高い頻度で認められました。また、高齢者よりも非高齢者に高い頻度で認められました。

● これらの症状は、通常、数日以内に治まります。なお、病状治療中の方で解熱消炎鎮痛剤などを使用される場合は、主治医・薬剤師に服薬についてご相談ください。

また、ひどい痛み・腫れ、高熱など重い症状と思われる場合は、医師に診察を受けてください。

次回5月中旬に掲載「潰瘍性大腸炎」についてお伝えします。

小田原医師会より住民の方々へ

新型コロナウイルス感染症(名称:COVID-19)の感染拡大が危惧される中、日々、様々な情報を耳にしていると思いますが、医療機関を受診する際の注意点をお知らせいたします。

①現在、何らかの理由で通院している方は、自己判断で通院(お薬)を中断しないでください。

現在治療中の病態が保てなくなることで、病態そのものが悪化し、さらに体調が不安定になることで感染のリスクが高くなり危険が増します。処方薬のうけとり方はかかりつけ医と相談できますので問い合わせてください。

②感染症と思われる「体調不良」がみられるとき、特に肺炎など呼吸器症状があるときには、慌てて受診せず、右記の手順でかかりつけ医または近医に問い合わせをしてください。

不安な毎日を送られていると思いますが、協力してこの窮状を乗り切りましょう。

小田原医師会

医療機関検索は小田原医師会の

サイトから利用できます



発熱、せき、咽頭痛(のどの痛み)があるときは、かかりつけ医へ。

かかりつけ医がない場合は

[小田原医師会地域医療連携室 ☎0465-47-0833:月~土 9:00~12:00 13:00~17:00]

もしくは [発熱等診療予約センター☎0570-048914:9:00~21:00] に 連絡をしてください。

上記の症状がない方のお問い合わせ先:

[新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル☎0570-056774]

医療機関や健診会場では換気や消毒でしっかりと感染予防対策がとられています。安心して受診してください。



この時期、新型コロナウイルス感染症に過敏になるあまり「受診控え」をする方が増えています。継続的な治療を中断すると健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。自己判断しないで医師に相談しましょう。